

Epistula

大分県立芸術文化短期大学広報誌「エピストゥラ」

2021 Spring
vol.62

大分県立
芸術文化
短期大学

OITA
PREFECTURAL
COLLEGE OF
ARTS
AND CULTURE

Epistula

OITA PREFECTURAL COLLEGE OF ARTS AND CULTURE
PUBLIC RELATIONS MAGAZINE

2021 Spring
vol.62

大分県立芸術文化短期大学広報誌「エピストゥラ」2021年3月10日発行 通巻62号
大分県立芸術文化短期大学 〒870-0833 大分市上野丘東1番11号 / TEL.097-545-0542(代表) / FAX.097-545-0543



音楽ホール棟にて定期演奏会の練習

特集記事

美術・音楽・国際総合・情報コミュニケーション 全4学科の活動報告

「EPISTULA」:古典ラテン語で“手紙”という意味です。広報室からみなさまへ、芸文短大の“いま”を伝えるお手紙をお届けします。

退職する教員からのメッセージ



国際総合学科 専任講師 中野 芳彦
芸文短大では学生の皆さんのやさしさに包まれながら日々を過ごすことができました。ゼミでの語らい、フランス語の授業、学外研修など、ひとつひとつが私にとっては思い出深いのですが、いっぽうで皆さんはすぐに私のことは忘れてしまうでしょう。(笑)
おそらくそれが一番いいのです。学生生活や教師を懐かしむことがあるとしたら、それは、何か壁にぶつかって悩んでいるときなのかもしれません。でも、もしそんな苦難に見舞われたときには、芸文短大で培われたアットホームな人間関係が、必ず皆さんの支えになると信じています。またお会いしましょう。

竹田キャンパス通信



ここ竹田キャンパスではちょっとした事件が起こっております。外履き用に屋外に置いてあるクロックスが何者かに盗まれる事件です。巧みな犯行で、まだ犯人は見つかっておりません。ですが先日犯人の居住区らしき場所を発見しました。盗まれたはずのクロックスが体育館下の鉄格子の間に挟まっているじゃありませんか。(笑)
体育館の下に何足隠し持っているやら。何の動物かまでは分かりませんが、なんだかほっこりしました。皆さんも屋外に履物を置く場合はどうぞご注意ください。

非常勤講師、大学OB 前田 亮二

学友会情報

Twitter @GakuyuGetan

Instagram @geitandayoo

この度学友会会長になりました情報コミュニケーション学科の後藤玲奈です。現在学友会は6人で活動しています。今はコロナということもあり、楽しみにしてくださっていたイベント等開催できない状態になっています。しかしそんな辛い状況だからこそ、私も学友会はそれに替わるようなオンラインでのイベントを開催して、皆さんと一緒に大学生活を楽しんでいきたいと考えております。至らない点もあると思いますが、誠心誠意メンバーたちと頑張っていきたいと思っております！
また学友会は随時メンバー募集しておりますので、気になる方がいらしたらいつでもお声がけください。

EVENT CALENDAR イベントカレンダー

3月 MAR.	17日(水) 18日(木) 19日(金)	第59回卒業演奏会 第37回修了演奏会 卒業・修了式	4月 APR.	5日(月) 6日(火)~9日(金) 12日(月)	入学式 新入生オリエンテーション 前期授業開始
-------------------	----------------------------	----------------------------------	-------------------	--------------------------------	-------------------------------

※各イベントは変更になる場合があります。

情報をいち早くGet!

大分県立芸術文化短期大学の公式Facebookでは、本学が主催するイベント・展覧会等のお知らせをはじめ、キャンパス内の様子や学生たちが行うさまざまな活動について報告しています。また、サークルやイベント、研究室等でもFacebookを立ち上げています。

<https://www.oita-pjc.ac.jp>

芸文短大 検索

美術科
ビジュアル
デザインコース



美術科
グラフィックアート
コース



美術科
プロダクト
デザインコース



音楽科



国際総合学科



情報
コミュニケーション
学科





「芸短ギャラリー」が完成!美術科美術専攻
「進級制作展」を開催しました

本学「芸短ギャラリー」の完成を機に、1月13日(水)～1月25日(月)の期間、美術科美術専攻1年次生(27名)と専攻科造形専攻美術コース(7名)による「進級制作展」を初めて開催しました。

会期中は、各年次の学生が後期授業(「美術I」、「美術の人と職業」、「造形研究II」)で制作した作品を展示するとともに、年次毎にギャラリートーク(公開合評会)を行いました。

コロナ禍ということもあり学外からの来場者が少なく残念でしたが、学内の多くの方々に来場いただき、美術専攻の学生にとって「新たなチャレンジの場」となりました。

「おおいた デザインエイド2020」にて
本学美術科生が学生賞を受賞しました

1月23日(土)、JRRおおいたシティタイムズスクエアにおいて、「おおいたデザイン・エイド2020 パッケージデザインコンテスト」が開催され、本学美術科デザイン専攻ビジュアルデザインコースの学生3名が学生賞に選ばれ表彰されました。

「おおいたデザイン・エイド」は、大分市がクリエイティブ産業の裾野の拡大・市内クリエイターの育成・クリエイターの発想や技術を活用した中小企業の販路拡大を目的に実施しているもので、今年で3回目となります。

表彰式では、学生を代表し、美術科デザイン専攻1年生の黒崎美羽さんが「製品のパッケージをデザインする過程がとても新鮮だった。今後もより楽しくデザインしていきたい」と話しました。佐藤樹一郎市長は「コンテストも今年で3回目となり、すでにいろんなものが商品化している。大分市としてもこの取り組みを更に進めていきたい。クリエイター、企業の皆さんにはこの場をぜひ活用してもらいたい」と呼びかけました。



本学と鬼塚電気工事株式会社の取り組みが
メセナアワード2020を受賞しました

企業のメセナ(文化・芸術の援護活動)を顕彰する「メセナアワード2020」の優秀賞に、鬼塚電気工事株式会社「プロジェクトONICO」が全国165件(93社・団体)の活動から選ばれ、12月7日(月)に本学小川大助学長に、受賞報告がありました。

「プロジェクトONICO」は、2018年に同社が本学美術科グラフィックアートコースと協働で開始した活動で、多様化する地域課題に対し、アート思考によりアプローチし、解決に向けた製品を開発するなど、社会貢献につなげる取り組みです。

初年度は、災害時に活用できる携帯電話の無料ステーションボックスをアート作品のように仕立てて市街地に設置し、そのボックスに、防災に役立つ情報発信や子どもが集う図書館などの機能を付け、2020年には、コロナ禍を配慮して、検温機能を加えたとのことでした。

今後も、活動を継続し発展させていく方針で、本学の学生達も、活動を通じ社会とアートとの関わりを見直すきっかけとなると話しています。



大分県内各地で多彩なアート活動

美術科では今年も作品展にワークショップ、講演会とさまざまな活動を大分県内各地で積極的に行いました。

第59回美術科
卒業・修了制作展

美術科・専攻科造形専攻の2年生101人の集大成「第59回美術科卒業・修了制作展」を大分県立美術館(OPAM)で2月2日から2月7日の6日間にわたって開催。油彩画、日本画、ミクストメディア、彫刻、ビジュアルデザイン、メディアデザイン、プロダクトデザイン、グラフィックアート分野の力作が並びました。



1回の舞台経験は100回の練習に勝る!

ベートーヴェン歌曲の午後～小林道夫客員教授を迎えて～を開催しました



11月15日(日)、本学音楽ホールにおいて「ベートーヴェン歌曲の午後」小林道夫客員教授を迎えて～を開催しました。小林道夫客員教授を迎え、愛甲久美教授(メゾソプラノ)、行天祥晃准教授(テノール)、林満理子准教授(ソプラノ)、宮本修名誉教授(バリトン)の本学声楽教員勢揃いによるベートーヴェン歌曲全28曲を披露しました。

小林道夫客員教授のピアノ伴奏に乗せ、教員らが優雅に、時に力強く豊かな声をホール内に響かせ、観客を魅了しました。当日は日本語訳の歌詞パンフレットが配布され、来場者はピアノ演奏と歌の響きと共に、日本語訳で表現された詩を読みときながら、その情景を楽しみました。

ベートーヴェン歌曲の夕べ～磯崎淳子名誉教授を迎えて～を開催しました

11月16日(月)、本学音楽ホールにおいて「ベートーヴェン歌曲の夕べ」磯崎淳子名誉教授を迎えて～を開催しました。本学音楽科磯崎淳子名誉教授のピアノと、森口真司教授指揮による初の共演で、オーケストラによるベートーヴェン作曲「ウェリントンの勝利」またはビクトリアの戦(戦争交響曲)「作品91」と、ピアノ協奏曲第4番ト長調作品58を2部構成で披露しました。

大迫力の演奏が会場を響かせ、磯崎淳子名誉教授による表現豊かな演奏技巧で来場者も一体となった演奏会となりました。



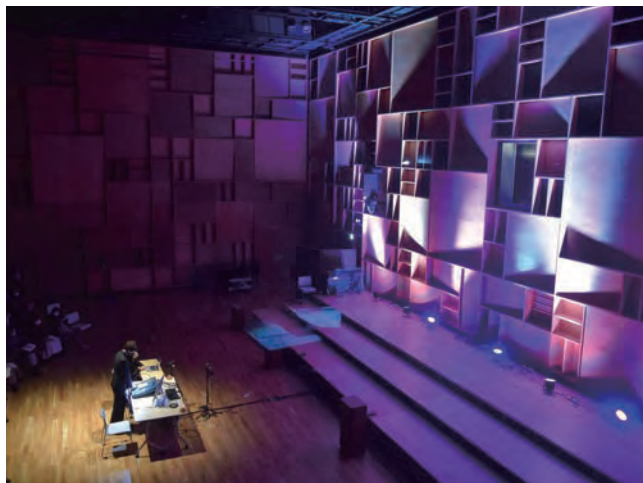
電子音響音楽演奏会を開催しました

1月15日(金)、本学音楽ホールにおいて「電子音響音楽演奏会」を開催しました。

松宮圭太講師が作曲したハイブリッドヴァイオリンのための作品が川瀬麻由美教授のヴァイオリン演奏によって披露された他、学生達は日常の音を素材にイメージを膨らませ、様々なアプローチで制作した作品をアコースモニウムの演奏によって発表。ホールには音の響きに配慮したスピーカーが10本設置され、全方位から響く音が来場者を圧倒しました。

発表された学生作品は本学や東京藝術大学、九州大学を始めとする全国16大学が参画するインターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル2020に出品され、本年3月末までオンライン上で視聴できます。

<https://icsaf.jssa.info>



音楽科ではこの言葉をモットーに、学生たちにできるだけ多く本格的なステージに立って演奏する機会を提供しています。今年度もさまざまな演奏会を開催しました。その一部をご紹介します。

卒業・修了演奏会のおしらせ

【日付】
3月17日(水)・18日(木)
【時間】
18:00開演
【場所】
iichiko総合文化センター
iichiko音の泉ホール

音楽科では今年も恒例の、音楽科コンサートシリーズなどを開催し、学生たちがコロナに負けない力強い演奏を披露しました。

9月には前期実技試験成績優秀者による「若さあふれるコンサート」①を開催。11月からは各コースの特色あふれる「作曲作品展」②(11月)、「ピアノコース演奏会」③(11月)、「管弦打コース演奏会」④(12月)、「声楽コース演奏会」⑤(2月)を開催しました。今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により延期した、学科総動員の「第56回定期演奏会」⑥も2月19日に盛況の中開催することができました。

また、年度末には1年間の集大成として「第59回卒業演奏会」、専攻科音楽専攻「第37回修了演奏会」を開催します。



さまざまな国際交流や魅力ある講義を実施

卒業研究発表会が開かれました



1月26日(火)と27日(水)の2日間、2年生による卒業研究発表会がゼミごとにオンラインで開催されました。書き上げた卒業論文の内容を、ひとりあたり10分程度でわかりやすく説明することが求められます。短大生活の総まとめであり、多くの1年生が視聴するので、2年生にとってはいつになく緊張する時間だったようです。人種問題、インバウンド、環境政策といった多種多様なテーマについて、各学生が堂々とプレゼンテーションしてくれました。

語学実習はオンラインで実施!

2020年度は海外渡航がむずかしい年でしたが、その代わりに実習先の大学からオンラインプログラムを用意していただき、多くの学生が参加しました!

- ◎「英語オンライン語学プログラム」
カリフォルニア大学デビス校
2月22日(月)▼3月12日(金)
- ◎「中国語オンラインプログラム」
江漢大学
3月2日(火)▼3月19日(金)
- ◎「韓国オンライン語学プログラム」
釜山外国語大学
2月8日(月)▼3月3日(水)
- ◎「フランス語オンライン講習」
CAVILAM(ヴェイシー市)
2月に1週間〜5週間



令和3年度「卒業研究」ゼミ説明会を開催しました



1月12日、1年生を対象に令和3年度「卒業研究」ゼミの説明会をオンラインで行ないました。本学科では2年次にすべての学生がゼミに所属し、学修の集大成である12000字以上の卒業論文を執筆します。アメリカ文化・韓国文化・観光学・経営学といった多彩なゼミの内容を11人の担当教員が説明しました。卒業後の進路を見据えながら、1年生は真剣に各ゼミの説明に聞き入っていました。個別相談や2年生による卒業研究発表会への参加を経て、2月に所属ゼミが決まります。

本学科では例年さまざまな国際交流活動が行われています。海外語学実習、大分国際車いすマラソンでのボランティア活動、中国人留学生との交友といった経験は学生の皆さんにとって大きな学びの機会ですが、今年度は残念ながらコロナ禍により、国境をまたぐような活動はできませんでした。それでもICTやタブレット端末をフル活用して、いつもと変わりのない学修環境を実現しようと奮闘した一年でした。

授業開始は延期され、4月中旬のオリエンテーションで新入生の皆さんとようやく顔を合わせることができ、教員にとっても忘れがたい日となりました。

そして5月初旬の新学期に合わせて、オンライン授業の受講に役立ててもらえるよう、本学科では1年生全員にタブレット端末を配布しました。10月の「芸短祭」もオンラインでの実施となりましたが、このとき使用したスタジオは本学科が中心となって開設し、「キャリアデザイン」などの講義で外部講師のかたにも積極的に活用いただいています。



11月には大分車いすマラソン大会関連企画として「廣道純選手とTALK SHOW」を大講義室にて開催しました。海外選手の参加がかなわなかった今年度の大会ですが、出場を控えた廣道純選手と洞ノ上浩太選手からは、競技の裏話などが惜しみなく披露されました。

感染症対策下にあっても安全性に最大限配慮しながら、学生と教員とが一緒になって、充実した学びの形を模索する一年となりました。



コロナ禍での授業風景

4月:新入生オリエンテーション

5月:1年生にタブレット端末配布



7月・9月:オープンキャンパス

10月:芸短祭

11月:芸短フェスタ「廣道選手とTALK SHOW」

地元と連携した 活動の数々でコミュニケーション力を研鑽

地域貢献を通じてコミュニケーション力と協調性を体得!

情報コミュニケーション学科の必修科目であるサービスマーケティングの一部ご紹介



手作りマスク増産プロジェクト
手作りで不織布マスク約2,700枚を作成し、福祉施設や行政機関に寄付しました。



環境ワークショップ
おおいとうつくし感謝祭に参加し、子供向け環境ワークショップを行いました。



サイバーボランティア
大分県警から委嘱を受け、サイバーハトロールを展開しました。



野津原青少年自然の家遊歩道整備
トレイルランニングのコース整備として、山林の遊歩道を新たに整備しました。



上野の森清掃活動
大学の周りがある上野の森の清掃を行うとともに森林保護の重要性を学びました。



別府北浜海岸清掃活動
別府駅から北浜海岸一帯を歩きながら清掃し、別府の観光政策についても学びました。



赤い羽根共同募金応援プロジェクト
芸短大オリジナルボールペンを作成し、大分県内で募金活動を展開しました。



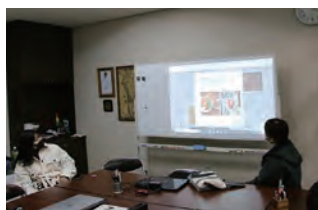
竹楽プロモーションビデオ撮影支援
竹楽を4K・8Kのハイビジョンカメラで撮影するため竹灯籠の設置に協力しました。



田ノ浦ビーチ清掃活動
ビーチの清掃を行うとともに、大分市の自然の魅力や観光政策を学びました。



田ノ口地区における稲の収穫支援活動
過疎化と高齢化が深刻な田ノ口地区の棚田において、稲の収穫支援を行いました。



大分の魅力SNS情報発信活動
飲食店業を支援するため学生が自らお店を取材し、SNSで情報発信を行いました。



クリスマスワークショップ
大分市内の商店街を支援するため、子供向けワークショップを府内五番街で開催しました。



ポルトソール通りデザインプロジェクト
大分市からの依頼に基づき、ポルトソール商店街の道路(タイル)のデザインを行いました。



竹田食育ツーリズム
竹田市のとうきび収穫・加工・販売支援を行い、SNSで情報発信を行いました。



大学生による里山リーダー育成活動
学生が子ども達の指導役となってネイチャーゲームの支援を行いました。



鶴崎の清掃と情報発信活動
鶴崎の街を清掃しながら加藤清正の歴史を学び、飲食店を支援するため情報発信を行いました。

2020年度のサービスマーケティングは新型コロナウイルス感染症の影響により例年、取り組んでいた活動はほぼ中止になりました。しかし屋内でのマスク着用、3密回避、消毒の徹底、活動前の体温測定、活動の種類に応じた人数制限等の対策を講じ、新たに手作りマスク増産プロジェクトの活動などを企画・実施して、数多くの学生が参加しました。

ご紹介しきれない活動内容については、下記のQRコードから学科専用のホームページ、インスタグラムをご参照ください。

サービスマーケティングをはじめ、学内外での活躍が光る情報コミュニケーション学科。その活動を一部紹介します。

1月28日(木)、29日(金)の両日、卒業研究発表会を開催し、11研究室で51のテーマ発表が行われました。

2年間の集大成である卒業論文の概要を、学生自ら創意工夫して発表。社会の仕組みや生活の中で興味・疑問に感じたことをテーマとして、アンケート調査や過去の事例の調査などを細かく実施したうえで、授業の中で携わった企画のPR手法、地域活性化に係る若年層へのアプローチ方法を用いて、学生の視点からの様々な研究成果を発表しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症対策のため、1年生や当日発表のない学生はオンラインでの参加となりました。

質疑応答では教員・在学生から多くの質問が寄せられ、発表者は各自の見解を述べながら、研究成果について再考していました。

情報コミュニケーション学科卒業研究発表会を開催!

研究発表一例

- 新型コロナウイルスによる甲子園への影響
—高校球児たちの気持ちの変化—
- 幼児の協同行動の発達
- 今どきの大学生の友人関係—本当に希薄化しているのか?—
- 敏感な人(HSP)の季節の感じ取り方—夏と秋について—
- 女性のワークライフバランスについて
—女性の社会進出に伴う私生活の充実への意識調査—
- 人工知能時代の結婚の概念について
- 大分県内の主要観光地における国際感染症の影響に関する研究
—湯布院におけるアンケート調査の結果から—
- 民泊サービスについての研究
- 道の駅紹介映像の制作
- コロナ禍における大分県産商品のPR諸課題
- 新たなキャラクター文化が開く観光産業の未来—VTuberをもっと身近な存在に—



今年度はサービスマーケティングとして上記を含めて約30の活動を企画・実施しました。さらに詳しい活動内容については是非、右記QRコードからご覧ください。



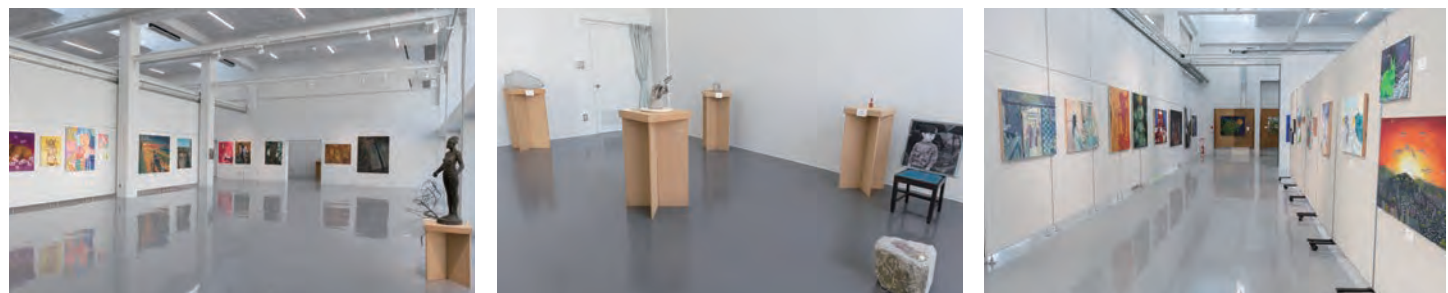
Instagram



学科ホームページ



芸短ギャラリー作品介绍



日々是精進

日頃の努力が、賞の受賞や商品化など結果に繋がった学生達を紹介します。

美術科
 おおいたデザイン・エド2020
【学生賞】 黒崎 美羽(デザイン専攻1年)
 岩谷 沙弥(デザイン専攻1年)
 山野 真優(デザイン専攻1年)

国際総合学科
 第73回韓国語能力試験(TOPIK)6級
【優良賞】 落合 早夏(2年)
 令和2年度 第2回日本語検定
【東京書籍賞 最優秀賞】 団体表彰

専攻科
 第26回宮日音楽コンクール
【優良賞】 柴田楓(音楽専攻 管弦打コース2年)
 第74回全日本学生音楽コンクール北九州大会
【第3位】 吉野心悟(音楽専攻 声楽コース1年)

音楽科
 ヴェルデ音楽コンクール大分地区予選 大学・一般の部
【金賞】 坪井梨乃(ピアノコース1年)
 第18回ヴェルデ音楽コンクール熊本本選 大学・一般の部
【金賞】 坪井梨乃(ピアノコース1年)

第22回シヨパン国際ピアノコンクールinアジア全国大会
【奨励賞・アジア大会出場】 剃岩霞(ピアノコース2年)
 第26回宮日音楽コンクール 声楽部門
【優秀賞】 宮田唯名(声楽コース1年)
 塚元由菜(声楽コース1年)

第69回南日本音楽コンクール
【入選】 塚元由菜(声楽コース1年)
 第74回全日本学生音楽コンクール北九州大会
【第1位・全国大会入選】 梅本遙(声楽コース2年)
【第2位・全国大会入選】 塚元由菜(声楽コース1年)



学長 小手川大助

似顔絵 学長秘書 土谷恵璃

学長コラム
生きる喜び 外国語の楽しみ
 1968年、高校生の時に交換留学生として1か月強ドイツに行く機会を得ました。また大学入学後の2年間、昼間は東大の教養学部に行きながら、夜は毎日3時間、週6日のロシア語の専門学校に通いました。
 ドイツ語とロシア語の共通点は、英語やフランス語と違い、外国人が自分たちの言語を話すというのを予想していかないという事です。こちらが話せることが分かる、先方は驚き、喜び、それまでのよそよそしさが消えて表情に嬉しさが表れ、直ぐに友達になれます。
 マルチの国際交渉ではこの点をよく利用させてもらいました。ドイツやロシアと組んで、日本や彼らの主張を最終合意に何度か入れることができました。また、ドイツ語やロシア語の歌を幾つか覚えて、ここぞという時に皆の前で歌いました。時には世界的に有名な音楽家の伴奏で歌う機会もできました。
 ありがたいことに、日本のカラオケには11か国の言語の歌が入っています。アジアの国では徳永英明を代表として日本の歌がその国の言葉で歌われています。そのため、私も13か国の言葉で歌えるようになり、色々な国の人々との出会いの場で役立たせてもらいました。



創立60周年記念ロゴマークコンテスト表彰式を行いました

1月18日(月)、「大分県立芸術文化短期大学創立60周年記念ロゴマークコンテスト」の表彰式を行いました。
 このコンテストは、本学がこの4月に創立60周年を迎えることから、これを広く周知するための統一ロゴマークとして昨年9月に募集を行ったもので、在学生や卒業生、教職員より50点もの作品応募がありました。
 審査の結果、最優秀賞に本学卒業生の杉本拓弥さんの作品が選ばれ、小手川大助学長より表彰状が贈られました。杉本さんは「卒業後もこのように大学と関わることができてうれしい」と話しました。

今後、杉本さんのデザインしたロゴは、創立60周年を広く知ってもらうため、学校案内冊子や記念事業のチラシなど様々な場面で活用していきます。

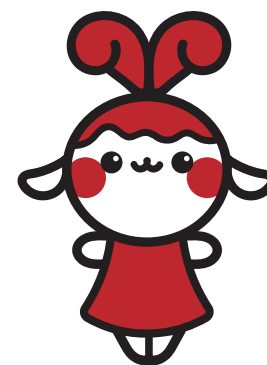


生活をカラフルに彩る芸術と文化の学び舎である芸文短大。美術・音楽・国際総合・情報コミュニケーションの4つの学科を4色のカラーで表現し、それらが輪になり、重なり合うことで芸短が紡いできた「60」年を表現しました。

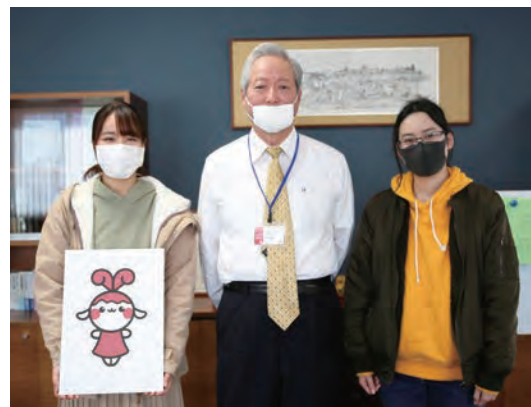
コンセプト

アートマネジメントプログラム企画「マスコットキャラクターコンテスト」でこのほど審査・投票により本学マスコットキャラクターが決定し、2月9日(火)に学長報告を行いました。
 コンテストには10件の応募があり、学生・教職員による投票の結果、美術科1年の黒崎美羽さんがデザインしたキャラクターが選ばれました。
 この企画を実施した美術科2年廣田百恵さんから、キャラクター決定までの経緯の説明の後、黒崎さんからデザインに込めた思いやキャラクターの場面に合わせた表情などについて報告されました。
 採用されたキャラクターは、本学が実施するイベントなど様々な場所に登場し、大学を盛り上げていきます。

芸文短大マスコットキャラクター採用作品が決定しました



大分県立芸術文化短期大学 マスコットキャラクター「ふみちゃん」



作者コメント

一目で芸文短大のキャラクターだと認識でき、地域、学生に親しまれるマスコットキャラクターです。動物感はあるつつも、何の動物かはあえて決めず、見た人の想像をかきたてるよう工夫しました。また、頭のてっぺんには芸文短大ロゴをモチーフにしたものを付け加えました。